

---

 会 計

## 大 嶽 藤 一

---

遠征隊の経費はその登山隊の性格によって大きく違って来る。逆にその登山隊の経費を見れば登山隊のおおよその性格を知ることができるだろう。ここインド、ヒマチャル・プラディシュの山々はその山容、気候、山の大きさなどから登山そのものに要する経費は全体の費用から見て、けして多いものではない。それに通常、日本で使用しているものが流用可能であることによっても、さらにその費用を少なくすることができる。だから山麓、都会、渡航費用がその大部分を占めることは出発時点でも容易に推測することが出来た。しかし予算は大ざっぱに立てることは可能であっても、現地での諸物価を良く知らずして組むことには少ない予算で行こうとする隊には、やはり不安を残すことになる。このことを考えて出来る限り滞在した都市での調査に心がけたが、思っていた半分も実現できなかった。「現地価格表」と合わせて参考に供したい。

収 入    3,982,113 円  
支 出    3,982,113 円

## 収入内訳

個 人 負 担	1,800,000 円
大学関係援助	895,000 円
学内カンパ	224,128 円
一般会社寄付	50,000 円
OB会カンパ	975,500 円
そ の 他	37,485 円
合 計	3,982,113 円

支 出

内 訳	予 算(円)	支 出(円)	比率(侈)
国 内 費	2,580,000	2,814,866	70.7
国 外 費	1,480,000	1,167,247	29.3
合 計	4,060,000	3,982,113	100.0

国 内 費	予 算(円)	支 出(円)	比率(%)
往復渡航費	1,080,000	900,000	31.9
保険費	220,000	235,163	8.3
装食糧費	300,000	294,506	10.4
食糧費	100,000	97,867	3.4
医薬品費	20,000	14,220	0.5
隊務送費	250,000	157,048	5.5
手続費	50,000	25,913	0.9
諸費	130,000	142,086	5.0
通報費	20,000	116,281	4.1
記録係書費	200,000	500,000	17.7
計画書費	100,000	225,386	8.0
土産費	30,000	38,576	1.3
雑費	20,000	52,250	1.8
予備費	10,000	15,570	0.5
	50,000	/	/
合 計	2,580,000	2,814,866	100.0

国 外 費	予 算(円)	支出(Rs)	支 出(円)	比率(%)
装 備 費	15,000	607.8	24,919	2.1
食 糧 費	165,000	2132.6	87,436	7.4
通 関 雑 費	20,000	188.0	7,708	0.6
交 通 費	50,000	721.0	29,589	2.5
輸 送 費 (インド内)	80,000	1520.0	62,320	5.3
" (インド~日本)	150,000	2296.1	94,138	8.0
ポ ー タ - 費	122,000	1275.0	52,275	4.4
シ ー ル パ 費	148,000	2016.8	82,686	7.0
通 信 費	50,000	375.2	15,381	1.3
都市滞在(ホテル)		3746.0	153,586	13.1
" (食 事)		3071.6	125,933	10.7
" (タクシー)	200,000	1713.0	70,230	6.0
" (その他)		834.0	34,195	2.9
通 訊 雇 用 費	0	2528.0	103,648	8.8
先 発 隊 員 費	230,000	4877.8	199,988	17.1
雑 費	50,000	566.2	23,215	1.9
予 備 費	200,000	/	/	/
合 計	1,480,000		1,167,247	100.0



## 支出について

### ( I ) 国内費

#### ( 1 ) 往復渡航費

予算立案に当っては、東京～デリー間往復の通常運賃を参考にした。グラフを見ても分かる様に、やはり一番大きな出費となっている。それだけに、この渡航費は10%違ってもその絶対額は大きくなる。この航空運賃は色々な割引きがあるから、良く研究すると安くなる。また旅行代理店も今は数多くあり、それだけに過当競争が激しく、我々には好材料である。一番安くなるのはチャーターだが、これを遠征隊で望むのは不可能であるが、そういった団体に交渉して、行きか帰りかだけでも一緒になってもらいたい。また15人以上集まれば1ヶ月以内なら50%割引きがあるが、これは1ヶ月という期限が切られており、難しい。しかしある程度人数がまとまれば2～3割は引いている様である。色々な代理店や航空会社と時間をかけて掛け合うことである。

東京～デリー～東京 252,400 円

#### ( 2 ) 保険

これは当初、国内20万、国外2万となっていた。隊員は国内で支払い、LO用は国外で支払う予定であったが為である。しかしインドでは登山行為には保険がかけられず、結局LO用も日本に電報を打ち、日本で保険を掛けた。

当初、日本でも登山行為に保険を掛けることが難しく(パンフレットに危険行為として、載っていても、実際には扱ってくれなかった。)単に海外旅行の保険だけにしようと考えたが、努力のこいがあり、日本火災海上保険で掛けることが出来た。しかし資料を参照されての通り、危険行為に対する保険金は大変高い。海外旅行保険だけならかなり安くなる。またシェルパ、ポーターには掛けなかったが、これらについては、インドで掛けられないとすると、彼等にも保険をかけることは難しいであろう。

#### ・危険行為に対する保険金

死亡保障 保険金に対し3.2% (但し保険期間1年)

治療保障 " 4.0% ( " )

以上のものは保険期間が1年未満のものは日割計算になるが44%以下にならない。

#### ・一般海外旅行傷害保険掛金

疾病死亡 保険金100万円に対し127.円(但し21才～30才、3ヶ月)

死亡、治療等 死亡保険額100万円、治療実費150万円まで4428円(3ヶ月)

疾病入院費保険料 一日当り7200円、入院雑費72000円限度、7812円(3ヶ月)

### (3) 装備費

現在OB会や山岳部にある物は使用する方針であったが、現役部員も合宿等がありホエーブス、BC用夏等を購入した。また個人装備は一切個人負担とし、ここには入っていない。LO用装備は、アイゼン、ピッケル、登山靴等はマナリの登山学校で借用することにして、おもに衣類等を日本から持参した。

### (4) 食糧・医薬品費

これらも出来る限りメーカーより寄付を仰いだ。食糧では登山用食品(アルファ米・ジフィーズ等は遠征隊等に寄付すると売るところが無くなってしまふ為に、寄付はなく購入した。それ以外は少量の嗜好品を購入している。

医薬品については器具等は少量なので購入し、又特殊な薬(抗マラリヤ剤等)を購入した以外は、ほとんどが寄付である為に、かなり安い出費に止っている。もし全部購入したら、大変な額になっているであろう。

### (5) 隊荷輸送費

これは装備、食糧等を日本からインドへの航空輸送費である。スポーツ用品はアナカンパニード・バゲッジ扱いが出来る。これは運賃が約半額になるので大いに利用することである。厳密にはこれに入らないものもあるが、それは代理店や航空会社との交渉でやってもらえる。我々の場合には全部これで送ることが出来た。またこの輸送費には代理店の手数料が含まれている。

東京～デリー 1kgにつき 458円(但しアナカンパニード・バゲッジ扱い。)

通関手続手数料 1600円

出入庫 手数料 800円

取 扱 手数量 1000円

ピック・アップ 4000円

地 上 運 送 料 2500円

### (6) 事務費

これは特に説明の必要はないだろう。そのほとんどがコピー代と紙代であった。

### (7) 諸手続費

詳細は次ページを見ていただきたい。尚表中、代理店の手数料は普通、航空運賃の7%が、航空会社より支払われるので、普通は取られないが我々は特殊な航空運賃の為に1人1万円をとられているが我々の場合にはビザ等の問題で代理店は全然役に立たず、むしろ自力でやった方が良かった。

パスポート印紙代 6000円(但し数次渡航)

予防注射	種痘、コレラ	1000 円
	破傷風	1000 円
	インフルエンザ	1000 円
	腸パラチフス	1000 円
	カンマグロブリン	5000 円
インドビザ発行代		762 円

## (8) 通信費

これは予算を大きくオーバーした一つであるが、この最大の原因は、何回もの国際電話、電報代による。これは先発隊員との連絡で、もし東京で許可が手に入れば、半額位になろう。又寄付をいただいた会社等への各連絡費も計画書や報告書等の様なものは多額になる。ちなみに国際電話代（東京で支払ったもののみ）は約 64000 円であった。

国際電話 一通話（3分）3045 円

国際電報 1ワード 132 円

## (9) 報告書費用費

## (10) 記録関係費

たて続けで気が重いが、これも予算を大きくオーバーしている。この最大の原因はカラーネガのプリント料である。スライドは現像してしまえば終りであるが、ネガはそうはいかない。また約 100 枚のモノクロ全紙（これは全部自分たちでやった）代も約七万かかっている。

## (11) 計画書費用

これはタイプ印刷 6 ページの計画書と英文計画書のゼロックス代である。我々はこの英文計画書を三回程出しているなのでこのゼロックス代が馬鹿にならない。

## (12) 土産代

これはインドでお世話になった人々への土産代であるが、これには先発隊員がインド人に頼まれて持参した、カセット付ラジオも含まれている。この分はその他の収入に繰り入れてあるので実際のこの土産費は約半分である。

余談になるが、ワンタッチ傘、折りたたみ傘はインドになく、ちょっとした土産に良い、又百円の使い捨てのガスライターも大変良い、これは登山中も低い所でなら使用出来るし、インドにはガスライターがないので、やると喜ぶ、我々は 30 本位持参したが 50 本以上欲しかった。

## ( ) 国外費

### (1) 装備、食糧費

詳しくは、それぞれの項を参照していただきたい。我々は装備、食糧共、日本からの持参量が多かった。我々の想像以上にインドで手に入るものがあった。それ故もしインドでの購入をふやせば、これは少し増加するだろう。ただ食糧についてはビスケットや米が相当余っており、これ以上になることは無いかも知れない。

### (2) 通関雑費

これは税関でのポーター代、その他手数料、荷物保管料である。

荷物保管料一個当たり(大きさ、重さには関係ない)1日1ルピー(但し到着後7日までは無料)

### (3) 交通費

ニューデリー市内でのタクシー代等や市内交通費は入っていない。これは都市滞入に入っている為である。デリー～デリーまでの隊員、LO、シェルパ(シェルパはマナリ～マナリ)のバス、自動車代である。

デリー～シムラ	24.5	ルピー(デラックス・バス但し1人分)
シムラ～マナリ	16.8	”(オーディナリー・バス ”)
マナリ～ケロット	12.2	”( ” )
ケロット～ティロット	4.3	”( ” )
マナリ～マッデイ	8.6	”( ” )
マンディ～チャンディガー	11	”( ” )
チャンディガー～デリー	34	”(鉄道・コンパートメント )

### (4) 輸送費

国内とはインド内での隊荷輸送費で、空港～デリー間はチャーターした小型トラック、デリー～マナリ間はやはりチャーターした大型トラック、マナリ～ケロン間は小麦粉を輸送している大型トラックに便乗し、ケロン～カムリン間はトラクターである。尚帰途の輸送費は荷が少ない為に隊員と一緒にバスで輸送した。この時、車掌に見つからなければ、何も取られないが、見つかり2～3人分位の運賃を取られた。これは、交通費の方に含まれているので、ここには入っていない。

またチャンディガー～デリー間は自動車であったが、一等のコンパートメントであったので、室の中に全部の荷を入れることが出来た。結局帰途の輸送費は、これには全然入っていない。

国外とはインド～日本間の航空輸送費である。航空運賃のほかに代理店手数料が含

まれている。この手数料は日本の時の様に、税関手数量や地上運賃は取っていない、インドの旅行代理店に尋ねると、それはサービスするといっていた。

空港～デリー市内 小型トラック、チャーター費.....40 ルピー  
 (この小型トラックには500kg位は積み込めるだろう。)  
 デリー～マナリ 大型トラック、チャーター費.....12.0 ルピー  
 (この大型トラックは日本の8トン車位で我々の時はガラガラであった。

マナリ～ケロン 大型トラック便乗 } .....300 ルピー  
 ケロン～カムリン トラクター

これはマナリからカムリンまでをマナリの米屋で契約した。

インド～日本 1kg 当り (但しアナカン扱い) .....11.7 ルピー  
 インド代理店手数料 (隊荷輸送のみ) .....100 ルピー

#### (5) ポーター費

カムリン～無名峰BC間はミュールと呼ばれる馬を使用し、13頭で二日を用いた。また帰途は半分の料金を払った。無名峰BC～ファブランBCまでは延べ三日でドンキーとポーターを使用した。ドンキーは余り良くない。ファブランBC～カムリンまでは二日でポーターを使用した。

ミュール (一日) 10 ルピー 70kg (担荷量)  
 ドンキー (＼) 8 ルピー 30kg (担荷量)  
 ポーター (＼) 12 ルピー 25kg (担荷量)

#### (6) シェルパ費

当初の計画ではコックとシェルパを分けていたが、マナリではコックとシェルパの区別はなく、彼等は料理もすれば、荷も担ぐ、我々は色々な面で彼等の生活態度に学ぶところがあった。ダルマチャンドゥとワンギャルの二人を雇ったが、共に良く働き、二人のチームワークも良く、良いシェルパであった。個人装備を貸与すると、一日5ルピー程安くなるが、彼等はほとんど全部持っており、むしろ、個人装備を持って来させた方が彼等も喜ぶ。

1日 15ルピー 但し 個人装備貸与

1日 20ルピー 但し 個人装備なし

尚ヘッドランプだけはシェルパの分もあった方が良い、

#### (7) 通信費

主に航空便代と二回の国際電話と二通の国際電報である。先発隊員が東京との連絡

に使用した通信費は、ここには含まれていない。これは先発隊員派遣費に含まれる。

インド～日本	葉書	0.75 ルピー	(速達代 0.7 ルピー)
	封書	1.55 ルピー (10g まで)	( " )
	国際電話	3分まで 54 ルピー	
	国際電報	25Word 16.7 ルピー	

#### (8) 都市滞在費

先発隊員派遣費も含めると実に国外予算の半分近い費用である。いかに都市滞在中に費用がかかるということである。天幕で泊まらなかった所(カムリンの様などころ)は都市とは言えないが、分類の都合上、全部ここに入っている。また資料中マナリの宿泊費が安いのは、メイフラワー・ゲストハウスの主人である、ネギ氏が日本の登山隊を懇意にしてくれている為である。

ニューデリー	ランジットホテル	1日約 50 ルピー	(朝食、サービス料を含む)
	ユースホステル	" 約 25 "	( " " )
シムラ		1日約 25 "	( " " )
クル		" 約 35 "	( " " )
マナリ	メイフラワーゲストハウス	" 約 8 "	(朝食は含まず、 " )
ケロッ	政府ゲストハウス	" 7 "	( " " )
タクシー		1ルピーから 0.1ルピーごと	
スクーター	0.5 "	" "	" "

#### (9) 通訳

当初通訳は考えていなかったが、手続をスムーズにする為に雇うことにした。これは主に先発隊員と行動を共にしたが、本隊到着後もマナリまでは同行した。もし日本で許可が手に入ればインドではIMF等に挨拶する位なら雇う必要も無いだろう。しかし我々のサニーは非常に良くやってくれ、通訳以外のことで色々世話になり、友達となったことは何にもまして有意義であったと思う。もし予算に余裕があれば雇っておいた方が色々便利である。ただサニー等は直接交渉するのと、旅行社を通すのではレートが違っている。我々は一日40ルピーであったが、旅行社からの収入は一日50~60ルピーだという。これに旅行社のマージンが入れば倍近い額になるだろう。

#### (10) 先発隊員派遣費

これは先発隊員の宿泊費、通信費、その他生活費の合計である。この期回は約45日

間であり、計画ではマナリまで行く予定であったが「ニューデリー通信」でも触れて  
「ニューデリー一人ぼっち」  
いる様な事情でデリーを離れられず、市内交通費以外の交通費は使用していない。